

令和5年度の主な国際交流・多文化共生推進関連事業について

※ 「京都市国際都市ビジョン」における国際都市像毎に記載

国際都市像 1 世界を魅了し、多種多様な人々が集まるまち

【取組の方向性】

- ① 新たな価値創出につながる京都の魅力の深化
- ② 外国人研究者や技術者、起業家、留学生等にとって魅力ある環境整備
- ③ あらゆる機会を通じた世界の都市「KYOTO」の魅力発信

【令和5年度の主な関連事業】

➤ 京都スタートアップ・エコシステム推進プロジェクト (41,900千円)

京都のスタートアップ・エコシステム等を国内外のスタートアップや投資家等に発信するとともに、オール京都及び京阪神間の連携により、京都のスタートアップの技術・アイデアを発表できる場を定期的に創出し、資金調達や販路開拓等を支援。

- ・ 京都スタートアップ・エコシステムWEBサイトの充実
- ・ 「IVS KYOTO 2023」へ実行委員会として参画 (令和5年6月28日～30日)

スタートアップの人財確保を支援するため、スタートアップと学生・留学生との交流の場を創出。

➤ 留学生スタディ京都ネットワーク (15,000千円)

大学、日本語学校、専修学校、経済界、京都府とともに、海外から京都の大学等への留学を促進するための組織を設立し、海外や首都圏の日本語学校から留学生を獲得するためのプロモーションや、国内外からの相談・問合せへのワンストップ窓口の開設、さらに留学生の住環境整備や就業支援に関して、オール京都体制で推進している。

➤ 新たな京都ファン開拓事業 (京都館プロジェクト) (14,000千円)

国内外から大量の人流が見込まれる2025年の「日本国際博覧会 (大阪・関西万博)」との連携も視野に入れながら、京都の伝統産業、文化などの魅力を、YouTube、SNS等を活用して国内外に発信し、京都ファンを増やす取組を実施。

国際都市像2 海外都市との連携が強まり、国際社会に貢献するまち

【取組の方向性】

- ① 文化の力を土台とした国際交流・協力による国際社会や世界平和への貢献
- ② 海外都市との相互利益型の都市間交流の推進

【令和5年度の主な関連事業】

➤ キーウ市・ウクライナ避難者支援（3,700千円）

キーウ市に対して、市民の皆様からの寄付金を活用して、防寒対策物資（使い捨てカイロ約35万個）を提供した。

また、ウクライナから本市に避難されている方々に対しては、企業・団体や市民の皆様との連携・協力の下で立ち上げた「ウクライナ・キーウ京都市民ぐるみ受入支援ネットワーク」において、ワンストップ窓口の運営、生活支度金の提供、住まい・就学・就労・日本語教育のサポートなどを実施した。令和6年1月12日時点で、71世帯79名（累計：88世帯97名）を受け入れている。

令和5年12月には、ウクライナの文化・芸術を広く紹介し、引き続き支援を呼びかけるため、キーウ市副市長、民族音楽家等の代表団が京都市を訪問。民族音楽の演奏会（12月7日、8日）やウクライナゆかりの芸術家による絵画展（12月11日～28日）を開催した。

➤ イクレイ東アジア地域理事会への出席（2,661千円）

市長が議長を務めるイクレイ東アジア地域理事会において、世界における地球温暖化対策に関する情報収集を行うとともに、2050年ゼロ達成に向けた京都市の取組について発信した。

➤ 京都・ケルン姉妹都市提携60周年記念事業（11,579千円）

ケルン市との姉妹都市提携60周年を記念し、京都市及びケルン市において、文化・スポーツ・経済・学術などの分野で記念事業を実施した。

京都市内では、市民に広くケルンの魅力を感じていただけるよう、「京都市内の洋菓子店と連携した、ケルンに関するオリジナルスイーツの販売」や「市内大学生ボランティアによるケルン・ドイツの紹介など様々な企画で盛り上げる京都deオクトーバーフェスト」を市民や関係団体と連携して実施した。

また、11月には本市代表団がケルン市を訪問し、市民交流団体等とともに、ケルン市内の大学生や企業等に対して京都の留学環境やビジネス環境の魅力を紹介するセミナーや、京都の伝統工芸品の展示・商談を行う「京都体感フェア」を実施した。

国際都市像3 **さまざまな世代で国際交流や多文化共生の意識が高まり、
国際感覚をもった人が育つまち**

【取組の方向性】

- ① グローバルな視点をもって地域の発展に貢献する担い手の育成
- ② 幅広い年齢層が世界の多様な文化に触れる機会の創出
- ③ 京都市の国際展開を支える職員の育成

【令和5年度の主な関連事業】

➤ **国際交流会館管理運営（指定管理）（186,453千円）**

京都市国際交流会館では、市民レベルの国際交流や多文化共生を推進するための各種事業を実施しているほか、各種活動の場として広く市民に活用されている。

【令和5年度の来館者数】 193,942人（令和5年12月末現在）

1 市民への情報提供・相談事業

ホームページやメールマガジン等を活用した情報発信、「京都市外国籍市民総合相談窓口」の運営（「行政書士による出入国管理手続き相談」、「外国人のためのカウンセリング・デイ」、「生活相談」など）

2 国際交流団体等との連携事業（「kokoka国際交流団体ねっと」の運営など）

3 共生社会を促進していくための担い手育成事業（ボランティア活動育成事業など）

4 異文化理解・多文化共生社会への促進事業（kokokaオープンデイ、やさしい日本語講座など）

5 留学生への支援、留学生との協働・交流事業（京都留学生情報サイトなど）

6 広報・出版・広告事業（イベントカレンダーの発行など）

7 姉妹都市コーナー・展示室の運営

➤ **英語教育・国際交流の推進（31,572千円）**

子どもたちが実践的な英語力を身につけることができるよう、小学校で日常的に英語に触れるための取組、中高校生の英検受検料補助、高校での修学旅行等や海外姉妹校との相互交流、GTEC（英語4技能テスト）の活用に取り組んでいる。

また文部科学省の留学支援制度であるトビタテ留学JAPAN等への積極的な応募も促している。

国際都市像4 多様性を生かしたまちづくりが進み、市民の生活が豊かになっているまち

【取組の方向性】

- ① 多言語による情報提供・コミュニケーション支援
- ② 外国籍市民等が安心・安全に暮らせる体制整備
- ③ 外国籍市民等による地域・市民活動への参加促進
- ④ 外国籍市民等の地域での就労支援

【令和5年度の主な関連事業】

➤ 多文化が息づくまちづくりに向けた日本語指導体制等の充実（23,734 千円）

日本語の理解が十分でない外国にルーツをもつ児童生徒等の増加傾向をふまえ、受入時に迅速かつ的確に対応できる新たな体制として、日本語指導担当教員の派遣等の総合的な支援を行うサポート校を設置し、外国にルーツをもつ児童生徒の受け入れを進めた。その体制のもと、巡回指導を担当する教員、母語による学校生活の適応促進や通訳等の主に言語面の支援を行う母語支援員を配置して一層の充実を図った。

➤ 京都市外国籍市民総合相談窓口運営（5,365 千円）

在留手続、雇用、医療、福祉、出産・子育て・子供の教育等の生活に係る適切な情報や相談場所に迅速に到達することができるよう、多言語による情報提供及び相談を行っている。
・令和5年度相談件数（令和5年12月末現在）：6,634件

➤ 地域・多文化交流ネットワーク促進事業（9,900 千円）

多文化共生を推進する団体や外国人コミュニティ等への活動場所の提供、関係団体間の連携促進、外国籍市民等支援や異文化理解に関する事業（日本語教室や東九条春まつり）を実施している。

国際都市像1 世界を魅了し、多種多様な人々が集まるまち

局区	担当課	事業名	令和5年度取組状況				その他関連する国際都市像	備考
			実施時期	概要	新規・充実・継続	R5年度予算額(千円)		
総合企画局	国際交流・共生推進室	京都・ケルン姉妹都市提携60周年記念事業	通年	ケルン市との姉妹都市提携60周年を記念し、京都市及びケルン市において、文化・スポーツ・経済・学術などの分野で記念事業を実施した。 京都市内では、市民に広くケルンの魅力を感じていただけるよう、「京都市内の洋菓子店と連携した、ケルンに関するオリジナルスイーツの販売」や「市内大学生ボランティアによるケルン・ドイツの紹介など様々な企画で盛り上げる京都deオクトーバーフェスト」を市民や関係団体と連携して実施した。 また、11月には本市代表団がケルン市を訪問し、市民交流団体等とともに、ケルン市内の大学生や企業等に対して京都の留学環境やビジネス環境の魅力を紹介するセミナーや、京都の伝統工芸品の展示・商談を行う「京都体感フェア」を実施した。	新規	11,579	2.3	
		世界歴史都市連盟事業	通年	令和5年11月8～9日に、スロベニアのリュブリャナ市において、2023年度世界歴史都市連盟理事会を開催。連盟の会長都市及び事務局として、京都市から副市長をはじめとする代表団を派遣した。理事会では、連盟の運営等について協議を行ったほか、令和6年11月にリュブリャナ市で開催予定の第19回世界歴史都市会議の日程やテーマ等を決定した。 また、連盟事務局では、機関紙の発行や公式ウェブサイトによる情報発信等を行った。	継続	6,150	2	
		京都市国際交流・多文化共生審議会の開催	第1回：令和5年8月2日 第2回：令和6年2月16日	第1回審議会議では、今年度の国際交流・多文化共生関連事業の実施予定等について市から報告するとともに、今期(令和5年度～7年度)提言に向け、テーマ設定について委員に議論いただいた。第2回では、市から今年度事業の取組状況等を報告するとともに、今期提言に向け、テーマ(①国際交流に係るテーマ：「市民・民間主体の国際交流の視野の拡大と担い手の育成」、②多文化共生に係るテーマ：「外国籍市民等の地域コミュニティへの参画と、多文化共生の担い手の育成」)に基づき議論いただく予定。	継続	326	2.3,4	
		国際会議や海外賓客の接遇時等における京都の魅力発信	通年	各国・都市、企業等の代表者による本市訪問の際、また、姉妹都市周年事業や在外公館におけるイベント等の機会を捉え、都市格向上に向けた京都の魅力発信を積極的に行った。 (参考)令和5年度国際的儀礼接遇件数(令和6年2月9日現在)：31件	継続	—		
		医療通訳派遣事業	通年	医療機関に対して通訳者を派遣することにより、外国籍市民等が安心して医療サービスを受け、安全に暮らすことができるよう、言葉を中心としたサポートを行っている。 ・令和5年度利用件数(令和5年12月末現在)：1,006件	継続	3,000	4	
		地域・多文化交流ネットワーク促進事業	通年	多文化共生を推進する団体や外国人コミュニティ等への活動場所の提供、関係団体間の連携促進、外国籍市民等支援や異文化理解に関する事業(日本語教室や東九条春まつり)を実施している。	継続	9,900	4	
		京都市外国籍市民総合相談窓口運営	通年	在留手続、雇用、医療、福祉、出産・子育て・子供の教育等の生活に係る適切な情報や相談場所に迅速に到達することができるよう、多言語による情報提供及び相談を行っている。 ・令和5年度相談件数(令和5年12月末現在)：6,634件	継続	5,365	4	
		多言語情報発信サポート事業	令和5年12月～令和6年2月	総合政策室京都創生担当と連携し、海外からの寄付獲得や新たな海外の京都ファンとの関係構築に向けて、外国人向けホームページに対する意見聴取会を開催した。 1回目：令和5年12月20日 2回目：令和6年2月28日(予定)	継続	400	4	
		災害時多言語電話通訳事業	通年	災害発生時、避難所の運営主体等が、日本語を話せない外国籍市民等が来られた際に対応できるよう、多言語対応した専用の電話回線により通訳可能な体制を整えている。(避難所等の開設期間中、24時間利用可能)	継続	500	4	
	総合政策室 留学生支援・大学連携推進担当	留学生スタディ京都ネットワーク	通年(平成27年度～)	大学、日本語学校、専修学校、経済界、京都府とともに、海外から京都の大学等への留学を促進するための組織を設立し、海外や首都圏の日本語学校から留学生を獲得するためのプロモーションや、国内外からの相談・問合せへのワンストップ窓口の開設、さらに留学生の住環境整備や就業支援に関して、オール京都体制で推進していく。	継続	15,000		
		京都で学ぶ留学生の受入環境支援・体験交流促進事業	通年(平成27年度～)	入学直後の留学生に行政手続きや生活ルールに係る情報提供等を行うとともに、京都市の文化施設の見学・体験等の機会を提供する。また、京都で学ぶ多様な学生が、京都ならではの文化芸術や伝統産業に少人数でじっくりと体験できる参加体験型プログラムを実施し、未永く京都ファンとして、京都への関心・愛着を持ってもらえるように取り組む。	継続	3,000		
	総合政策室 京都創生担当	海外からの寄付の受入れの推進	通年	・MICEの機会を通じた取組の周知 ・海外経営者層等富裕層の入浴機会を捉えた直接営業 ・インバウンド客が利用する市内施設での取組の周知 ・情報発信ページのリニューアル(R6.3予定) ・寄付受入れフォームのリニューアル(R6.3予定) ・インバウンド層を主なターゲットとしたプロモーション(R6.3予定)	継続	3,685	2	
		グローバル都市WGの開催	通年	・WGの開催(9月12日) ・関係課と情報共有、意見交換及びグローバル関係事業のサポート 例：英国政府対応(12月5日)、文化・観光関連WSのサポート(1月11日・12日)	継続	—	2	
	文化市民局 文化芸術企画課	東アジア文化都市交流事業	通年	アジア文化都市2017において、本市とともに連携して事業を行った中国・長沙市から、長沙市友好代表団が本市を視察。 創造都市ネットワーク日本国際ネットワーク部会において、東アジア文化都市の取組について、都市間での情報共有を行った。	継続	—	2.3	
京都国際舞台芸術祭(KYOTO EXPERIMENT)		令和5年9月30日～10月22日	京都・日本そして世界の舞台芸術を紹介することを目的に、平成22年度から京都市内で開催している舞台芸術祭。 世界各地の「EXPERIMENT(実験)＝実験」的な舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を新しい形の対話でつなぐことを目指している。 次年度も世界各国からアーティストを招聘する。	継続	28,000	2.3,4		
京都芸術センター事業		通年	京都芸術センターは、京都における文化芸術の総合的な振興を目的として設置され、国内外の文化施設や文化芸術団体と連携した事業の実施や、外国の文化機関とのネットワーク強化に取り組む。また、多様な芸術に関する活動を支援し、芸術に関する情報を広く発信するとともに、国際文化交流・人的交流のハブとして、国内外のアーティストの滞在制作支援事業などを実施する。	継続	127,228	2.3,4	予算額は、京都芸術センターの運営に係る指定管理料。	
KYOTOGRAPHIE(京都国際写真祭)		令和5年4月15日～5月14日	京都を舞台とした国際的な写真祭「KYOTOGRAPHIE(京都国際写真祭)」を本市共催により開催(主催：一般社団法人KYOTOGRAPHIE)。京都の歴史的建築物などを会場(市内十数か所)とし、選りすぐりの国内外写真家による展覧会等を実施する。	継続	—	2		
京都文学賞		通年 ※令和元年度～	京都を題材とする小説を募集・表彰することにより、京都における文学の更なる振興とともに、「文化都市・京都」の発信や京都の歴史と魅力の再認識、都市格の向上につなげる。 作品の募集・選考を行い、一般部門2作品、中高生部門3作品、海外部門2作品を受賞作等に選定。令和6年1月に表彰式を実施した。	継続	10,771			

局区	担当課	事業名	令和5年度取組状況				その他関連する国際都市像	備考
			実施時期	概要	新規・充実・継続	R5年度予算額(千円)		
文化市民局	文化芸術企画課	京都・文化ファンドレイジング戦略推進事業	通年 ※令和3年度～	社会全体で文化芸術を支える仕組みを構築するため、Arts Aid KYOTOの取組を継続するとともに、寄付受付サイト(Kyoto Art Donation)を令和5年5月に開設。あわせて高額所得者向けの寄付獲得の取組の強化等を行った。	充実	101,760		
		京都文学レジデンス	10月 ※令和4年度～	国内外から招致した若手の作家、詩人、翻訳家が、京都に一定期間滞在し創作活動を行う場を提供する。講演会、朗読会等の参加による市長等との交流や、創作活動を通じて京都の魅力を発信する。京都の複数の大学の教授等による実行委員会に本市も参画。令和5年9月30日から10月22日まで第2回京都文学レジデンスを開催。	継続	—		
		「カルチャープレナー」の創造活動促進事業	通年 ※令和5・6年度	カルチャープレナー(文化起業家)の実践事例をリサーチするとともに、カルチャープレナーアワード2023を開催し、国内外に提唱するカルチャープレナーの評価軸や社会的インパクトの見える化を図った。	新規	15,500		
産業イノベーション推進室		中小企業海外展開支援事業	通年 (平成26年度～)	①中小企業の海外展開支援事業 ○ジェトロが有する中小企業のニーズに答えられる豊富な情報、支援メニューや充実したネットワークを活かして、ジェトロ京都を窓口とし、京都企業の海外展開や外資企業の誘致に関してワンストップの支援を実施。 ・相談件数(R5.12末時点):564件 ○地域企業に対する相談体制を強化することを目的として、オール京都で設置した海外ビジネスセンターにおいて、取組の事前相談から輸出手続、ビジネス化までの一貫した支援を実施。 ・相談件数(R5.12末時点):469件	継続	11,700		
		京都スタートアップ・エコシステム推進プロジェクト	通年 (令和3年度～)	○京都のスタートアップ・エコシステム等を国内外のスタートアップや投資家等に発信するとともに、オール京都及び京阪神間の連携により、京都のスタートアップの技術・アイデアを発表できる場を定期的に創出し、資金調達や販路開拓等を支援 ・京都スタートアップ・エコシステムWEBサイトの充実 ・「IVS KYOTO 2023」へ実行委員会として参画 令和5年6月28日～30日 ○スタートアップの人財確保を支援するため、スタートアップと学生・留学生との交流の場を創出 ・留学生とスタートアップ・地域企業等の交流会 令和6年2月22日(予定)	継続	41,900	2	予算額は、プロジェクト全体の予算額であり、全てが海外展開・情報発信等に係るものではない。
		グローバル・ニッチ・トップ企業創出プロジェクト	通年 (令和5年度～)	市内中小企業が円滑に海外へ進出できるよう、①海外市場のニーズ調査②展示会出展③製品開発について、経費の一部を補助するとともに、コーディネータによる海外進出に向けた計画策定等の支援を実施。 ・申請件企業数:64件(製造35件、小売14件、卸売9、サービス5件、その他1件) ・採択件数:13件	新規	26,200		
産業観光局	クリエイティブ産業振興室	新たな京都ファン開拓事業(京都館プロジェクト)	通年	国内外から大量の人流が見込まれる2025年の「日本国際博覧会(大阪・関西万博)」との連携も視野に入れながら、京都の伝統産業、文化などの魅力を、YouTube、SNS等を活用して国内外に発信し、京都ファンを増やす取組を実施。	新規	14,000		
		伝統産業未来構築事業	通年	世界が誇る京都の伝統産業を持続可能な形で未来に継承していくため、他ジャンルとのコラボによる新商品開発や販路の開拓・拡大、後継者育成に係る事業に加えて、伝統産品の海外展開に資する新たな取組を支援し、商品力及び販売力の強化につなげていく。	充実	22,000		
		次世代クリエイター育成プロジェクト	通年	これまで取り組んできた「京都国際マンガ・アニメ大賞」を「京都国際クリエイターズアワード」に発展させるとともに、「クリエイター創作活動支援制度」の創設、「最新デジタル技術の活用による産業振興プロジェクト」の実施も併せた「次世代クリエイター育成プロジェクト」として実施。 本事業を通じ、国内外の優秀なクリエイターのさらなる獲得・育成を行うことで、クリエイティブ活動がより活発になるための場を醸成するとともに、京都との結びつきや交流を強化し、次世代のクリエイターが豊かに育つ好循環を形成。	新規	11,600		
観光MICE推進室		持続可能なインバウンド観光促進事業	通年	外国人観光客の本格的な回復を見据え、京都観光モラルや観光マナーの周知啓発、インバウンド受入環境の再整備やプロモーションの実施等に取り組み、地域経済の活性化を図るとともに、市民生活と調和した持続可能な観光を推進する。	新規	51,000	2	
		サステナブルMICE都市形成事業	通年	脱炭素や地域貢献等のSDGsに資する活動に対する補助制度を新たに創設し、SDGsに貢献するMICEの開催・誘致に取り組むとともに、MICE商談会の開催や出展を通じて、コロナ禍で分断された国際的なMICE誘致ネットワークの再構築を図る。	新規	31,000	2	
		京都観光オフィシャルサイトの運営	通年	京都観光オフィシャルサイトを運用し、国内外の観光客に向けて、魅力的なコンテンツはもとより、新型コロナウイルス感染症に係る注意喚起、施設・イベント等の休止情報の発信や、京都観光モラル、入浴前からのマナー啓発、観光客の分散化、災害・防災行動情報など、京都観光に資する情報の発信を行う。	継続	63,200	2	
		メディア等を通じた国内外向け情報発信等	通年	海外情報発信・収集拠点(全6箇所)(台北、シドニー、パリ、ロンドン、ロサンゼルス、ニューヨーク)を設置して海外市場に合わせたきめ細やかなプロモーションを実施するほか、映画・ドラマの撮影支援等の国内外のメディア支援を行うことにより、世界における京都のメディア露出の増加に努める。	継続	36,416	2	
		京都文化・観光コンベンションビューロー補助金	通年	MICE京都ブランドの一層の磨き上げや競争力強化を図るため、積極的な誘致活動や、誘致・開催を支援する助成金・補助金制度の活用等を通じて、MICEの早期回復に繋げる。	継続	102,344	2	
		京都市認定ガイド制度の運営	通年	外国人観光客へのサービスの向上と通訳ガイドの活躍の場を充実させるため、これまでに育成したガイドに対して、必要な知識や技術を学ぶ研修を実施する。また、外国人観光客の本格的な回復や令和7年に開催予定の大阪・関西万博等の大型イベントを見据え、新規募集(第6期生)を行う。	継続	22,900	2	
		観光立国・日本の拠点都市にふさわしい総合観光案内所運営費	通年	京都の玄関口である京都駅構内(京都駅ビル2階)において、「京都総合観光案内所(京なび)」を府市協調により設置し、府内全域の観光・交通案内を多言語(日、英、中、韓の常時対応のほか、スタッフにより、フランス語、スペイン語、ドイツ語、タイ語も対応可能)で実施。	継続	65,799		
		観光案内DX事業	通年	パソコンやスマートフォン等で利用可能な「京なびオンライン」サービス(対応言語:日、英、中(簡体・繁体)、韓)において、チャットボットによる質問対応や利用者のニーズに応じた観光プランの提案等による観光案内のほか、「よくある質問」サイト、「観光パンフレット・地図ダウンロード」サイト、「観光快適度マップ」、災害等の緊急情報の発信等を行っている。 また、京都総合観光案内所(京なび)施設内や鉄道駅等にタブレット端末を設置し、同様のサービスを提供するとともに、これらの端末では、「京なび」スタッフとのビデオ通話を可能とし、どこでも快適に観光案内を受けられる環境を整備。	継続	3,600		
都市計画局	まち再生・創造推進室	海外の行政機関・教育機関からの視察受入、情報発信	通年	韓国(10団体、153名)、中国(1団体、12名)、JICA(8ヶ国、11名)を受け入れた。	継続	300		

局区	担当課	事業名	令和5年度取組状況				その他関連する国際都市像	備考
			実施時期	概要	新規・充実・継続	R5年度予算額(千円)		
上下水道局	水道部施設課	施設見学の受入れ	通年	外国人研修生等の受入については、要望内容に応じて検討を加え受入れを行っている。	継続	—		
	下水道部施設課	施設見学の受入れ	通年	外国人研修生等の受入については、要望内容に応じて検討を加え受入れを行っている。	継続	—		
教育委員会	生涯学習部 生涯学習推進担当	京都市内博物館ガイドブック「京都ミュージアム探訪」(日本語版及び英語版)の改訂版発行及びweb配信	平成31年3月～	2019年の国際博物館会議(ICOM)京都大会や東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、平成25年に発行した京都市内博物館ガイドブック「京都ミュージアム探訪」(日本語版及び英語版)を、最新の情報へ更新し、より読みやすく、興味を引く内容とし、広く発信するため、平成31年3月に、書籍の改訂版を発行するとともに新たにwebサイトでの配信を開始した。WEBサイトでは施設情報の更新や新規ページの作成など充実を図った。	継続	161		
	生涯学習部 施設運営担当	多言語化パンフレット・リーフレット・音声ガイド	パンフレット:通年 リーフレット:令和3年度～ 音声ガイド:令和3年度～	京都市生涯学習総合センター(京都アスニー)にある古典の日記念 京都市平安京創生館において、来館者向けに作成した常設する平安京復元模型等の解説を掲載した英語・中国語・ハンガルの案内パンフレットと、学校教育にも活用できるリーフレットを置き、リーフレットは学校にも配布した。また引き続き常設展示の解説英語版案内板を設置するとともに、平安京復元模型の音声ガイドを運用した。	継続	—	4	
	学校歴史博物館	多言語化音声ガイド・パンフレット・リーフレット	平成29年度～	英語・韓国語・中国語・日本語の音声ガイドと英語・韓国語・中国語のパンフレット・リーフレットを平成29年度に作成し、平成30年度から外国人観光客等に使用している。	継続	—		
	青少年科学センター	多言語通訳サービス	通年 (令和元年7月～)	入館時の改札業務において、外国人来館者に対し、翻訳機による英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語等48ヶ国語対応の通訳サービスやタブレット端末による通訳アプリを使用した対応を実施している。	継続	—		
		展示品名の多言語表記	通年	新しい展示品を導入する際には、日本語に加え、英語・中国語・韓国語で展示品名を表示している。	継続	—		

国際都市像2 海外都市との連携が強まり、国際社会に貢献するまち

局区	担当課	事業名	令和5年度取組状況		新規・充実・継続	R5年度予算額(千円)	その他関連する国際都市像	備考	
			実施時期	概要					
総合企画局	国際交流・共生推進室	キーウ市・ウクライナ避難者支援	通年	キーウ市に対して、市民の皆様からの寄付金を活用して、防寒対策物資(使い捨てカイロ約35万個)を提供した。 また、ウクライナから本市に避難されている方々に対しては、企業・団体や市民の皆様との連携・協力の下で立ち上げた「ウクライナ・キーウ京都市民ぐるみ受入支援ネットワーク」において、ワンストップ窓口の運営、生活支度金の提供、住まい・就学・就労・日本語教育のサポートなどを実施した。令和6年1月12日時点で、71世帯79名(累計:88世帯97名)を受け入れている。 令和5年12月には、ウクライナの文化・芸術を広く紹介し、引き続き支援を呼びかけるため、キーウ市副市長、民族音楽家等の代表団が京都市を訪問。民族音楽の演奏会(12月7日、8日)やウクライナゆかりの芸術家による絵画展(12月11日～28日)を開催した。	継続	3,700			
		京都市国際交流・多文化共生審議会の開催	第1回: 令和5年8月2日 第2回: 令和6年2月16日	第1回審議会では、今年度の国際交流・多文化共生関連事業の実施予定等について市から報告するとともに、今期(令和5年度～7年度)提言に向け、テーマ設定について委員に議論いただいた。第2回では、市から今年度事業の取組状況等を報告するとともに、今期提言に向け、テーマ(①国際交流に係るテーマ:「市民・民間主体の国際交流の裾野の拡大と担い手の育成」、②多文化共生に係るテーマ:「外国籍市民等の地域コミュニティへの参画と、多文化共生の担い手の育成」)に基づき議論いただく予定。	継続	326	1,3,4	再掲	
		ニュー・ブランシュ KYOTO	令和5年9月30日 ～令和5年10月28日	日仏アーティストによる現代アートのプログラムを市内33会場約1箇月間にわたり実施した。13回目となる今年度は「Puissances(パワー)」をテーマとし、自然のパワーやテクノロジーのパワー、そして人間のパワーが注ぎ込まれた多彩なプログラムを展開した。また、初の試みとして、プログラムの公募を行い、審査を経て6つのプログラムを選定した。	継続	1,000			
		世界歴史都市連盟事業	通年	令和5年11月8～9日に、スロベニアのリュブリャナ市において、2023年度世界歴史都市連盟理事会を開催。連盟の会長都市及び事務局として、京都市から副市長をはじめとする代表団を派遣した。理事会では、連盟の運営等について協議を行ったほか、令和6年11月にリュブリャナ市で開催予定の第19回世界歴史都市会議の日程やテーマ等を決定した。 また、連盟事務局では、機関紙の発行や公式ウェブサイトによる情報発信等を行った。	継続	6,150	1	再掲	
		京都・ケルン姉妹都市提携60周年記念事業	通年	ケルン市との姉妹都市提携60周年を記念し、京都市及びケルン市において、文化・スポーツ・経済・学術などの分野で記念事業を実施した。 京都市内では、市民に広くケルンの魅力を感じていただけるよう、「京都市内の洋菓子店と連携した、ケルンに関するオリジナルスイーツの販売」や「市内大学生ボランティアによるケルン・ドイツの紹介など様々な企画で盛り上げる京都deオクトーバーフェスト」を市民や関係団体と連携して実施した。 また、11月には本市代表団がケルン市を訪問し、市民交流団体等とともに、ケルン市内の大学生や企業等に対して京都の留学環境やビジネス環境の魅力を紹介するセミナーや、京都の伝統工芸品の展示・商談を行う「京都体感フェア」を実施した。	新規	11,579	1,3	再掲	
		F.Cケルンとのサッカー交流	令和5年6月	ケルンのプロサッカーチーム「F.Cケルン」の指導者等が一般社団法人京都府サッカー協会の育成選手への指導を行うとともに、京都市立音羽中学校を訪問し、体育の授業などを通じて、市内中学生と交流を行った。	継続	—			
	姉妹都市とのマラソンを通じた交流	マラソン開催時	姉妹都市ケルン市で実施されたケルンマラソンについて、姉妹都市ランナー枠(エントリーフィー無料)を募集した結果、1名のランナーが参加された(令和5年10月1日)。 姉妹都市ボストンとの提携65周年を記念し、ボストン日本協会及び京都南ロータリークラブの協力により、「京都マラソン」と「ボストンマラソン」に互いの市民が参加できる機会を創出(京都マラソン:令和6年2月18日、ボストンマラソン:令和6年4月15日)。	継続	—				
	総合政策室 SDGs・レジリエントシティ推進担当	京都世界水大賞2024	令和5年6月～ 令和6年5月(6月～募集、11月～審査、令和6年5月授賞式)	京都市、世界水会議(World Water Council: WWC)及び特定非営利活動法人日本水フォーラムが共催し、途上国の水問題解決に向けて優れた活動を続ける草の根団体を顕彰する国際的な賞。3年に1度開催される国際会議「世界水フォーラム」に併せて授与を行う。	継続	—			
	総合政策室 京都創生担当	海外からの寄付の受入れの推進	通年	・MICEの機会を通じた取組の周知 ・海外経営者層等富裕層の入洛機会を捉えた直接営業 ・インバウンド客が利用する市内施設での取組の周知 ・情報発信ページのリニューアル(R6.3予定) ・寄付受入れフォームのリニューアル(R6.3予定) ・インバウンド層を主なターゲットとしたプロモーション(R6.3予定)	継続	3,685	1	再掲	
		グローバル都市WGの開催	通年	・WGの開催(9月12日) ・関係課と情報共有、意見交換及びグローバル関係事業のサポート 例: 英国政府対応(12月5日)、文化・観光関連WSのサポート(1月11日・12日)	継続	—	1	再掲	
	環境政策局	地球温暖化対策室	イクレイ日本事業への参加	通年	平成8年9月から持続可能な社会の実現に積極的に取り組む自治体及び自治体連合で構成された国際的な連合組織である「イクレイ-持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会」に加盟し、国内外の自治体との連携を図っている。イクレイの日本での活動を支援するため、(一社)イクレイ日本に本市職員を1名派遣している。	継続	2,244		
			イクレイ東アジア地域理事会への出席	令和5年10月	市長が議長を務めるイクレイ東アジア地域理事会において、世界における地球温暖化対策に関する情報収集を行うとともに、2050年ゼロ達成に向けた京都市の取組について発信した。	継続	2,661		
EU主催「国際都市地域間協力(IURC)」プロジェクト			令和3年後期～5年(3年間)	EUと世界各国の都市の実務担当者が意見交換や相互訪問などを通じて、互いの都市課題に取り組むEU主催の都市間連携プロジェクト。本市は、姉妹都市であるプラハ市(チェコ)と2050年ゼロ達成に向けた気候変動対策を中心に交流しており、最終年は前年度に実施した両市職員の相互派遣の結果等を踏まえたアクションレポート作成等に取り組んだ。	継続	—			
世界気候エネルギー首長誓約(「世界首長誓約/日本」)への参画			通年	平成31年1月、世界最大の気候変動に関する都市間連携組織「世界気候エネルギー首長誓約」に加盟し、国内外の自治体と連携を図っている(市長が日本の地域組織「世界首長誓約/日本」の運営委員会委員)。	継続	—			
脱石炭連盟(PPCA)への参画			通年	令和3年3月、石炭火力発電からの脱却を目指す「脱石炭連盟」に加盟。日本唯一の加盟都市として、再生可能エネルギーへの転換を加速させるとともに、脱炭素社会に向けた先進的な取組を継続して発信する。	継続	—			
「JICA草の根技術協力事業」を通じたマレーシア・ジョホールバル市への環境教育支援			令和3年10月～ 令和7年1月(3年3ヵ月)	令和5年2月、ジョホールバル市に開設した環境学習拠点(マレーシア版エコセンター)において、マレーシア国内及びASEAN諸国自治体職員を対象に研修を実施した。	継続	—			

局区	担当課	事業名	令和5年度取組状況		新規・充実・継続	R5年度予算額(千円)	その他関連する国際都市像	備考
			実施時期	概要				
文化市民局	文化芸術企画課	東アジア文化都市交流事業	通年	東アジア文化都市2017において、本市とともに連携して事業を行った中国・長沙市から、長沙市友好代表団が本市を視察。創造都市ネットワーク日本国際ネットワーク部会において、東アジア文化都市の取組について、都市間での情報共有を行った。	継続	—	1,3	再掲
		京都国際舞台芸術祭 (KYOTO EXPERIMENT)	令和5年9月30日～10月22日	京都・日本そして世界の舞台芸術を紹介することを目的に、平成22年度から京都市内で開催している舞台芸術祭。世界各地の「EXPERIMENT(エクスペリメント)=実験」的な舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を新しい形の対話でつなぐことを目指している。次年度も世界各国からアーティストを招聘する。	継続	28,000	1,3,4	再掲
		京都芸術センター事業	通年	京都芸術センターは、京都における文化芸術の総合的な振興を目的として設置され、国内外の文化施設や文化芸術団体と連携した事業の実施や、外国の文化機関とのネットワーク強化に取り組む。また、多様な芸術に関する活動を支援し、芸術に関する情報を広く発信するとともに、国際文化交流・人的交流のハブとして、国内外のアーティストの滞在制作支援事業などを実施する。	継続	127,228	1,3,4	・再掲 予算額は、京都芸術センターの運営に係る指定管理料。
		KYOTOGRAPHIE (京都国際写真祭)	令和5年4月15日～5月14日	京都を舞台とした国際的な写真祭「KYOTOGRAPHIE(京都国際写真祭)」を本市共催により開催(主催:一般社団法人KYOTOGRAPHIE)。京都の歴史的建築物などを会場(市内十数か所)とし、選りすぐりの国内外写真家による展覧会等を実施する。	継続	—	1	再掲
	美術館	各種展覧会の開催	展覧会により異なる	○マリー・ローランサンとモード(令和5年4月16日～6月11日) ○ルーヴル美術館展 愛を描く(令和5年6月27日～9月24日) ○MUCA展(令和5年10月20日～令和6年1月8日) ○パリ ボンビドゥーセンター キュビズム展—美の革命 ピカソ、ブラックからドローネー、シャガールへ(令和6年3月20日～7月7日)	新規	—		共催展であるため本市からの出資はなし。
市民スポーツ振興室	京都マラソン2024	2024/2/18	国外から広くランナーを募集するとともに、多言語サイトの作成、語学ボランティアの配置、多言語で案内サインを設置し、おこしやす広場をはじめ、大会を通じて京都の文化の発信に取り組む。	継続	152,000			
産業観光局	産業イノベーション推進室	京都スタートアップ・エコシステム推進プロジェクト	通年(令和3年度～)	○京都のスタートアップ・エコシステム等を国内外のスタートアップや投資家等に発信するとともに、オール京都及び京阪神間の連携により、京都のスタートアップの技術・アイデアを発表できる場を定期的に創出し、資金調達や販路開拓等を支援 ・京都スタートアップ・エコシステムWEBサイトの充実 ・「IVS KYOTO 2023」へ実行委員会として参画 令和5年6月28日～30日 ○スタートアップの人財確保を支援するため、スタートアップと学生・留学生との交流の場を創出 ・留学生とスタートアップ・地域企業等の交流会 令和6年2月22日(予定)	継続	41,900	1	・再掲 予算額は、プロジェクト全体の予算額であり、全てが海外展開・情報発信等に係るものではない。
	観光MICE推進室	持続可能なインバウンド観光促進事業	通年	外国人観光客の本格的な回復を見据え、京都観光モラルや観光マナーの周知啓発、インバウンド受入環境の再整備やプロモーションの実施等に取り組み、地域経済の活性化を図るとともに、市民生活と調和した持続可能な観光を推進する。	新規	51,000	1	再掲
		サステナブルMICE都市形成事業	通年	脱炭素や地域貢献等のSDGsに資する活動に対する補助制度を新たに創設し、SDGsに貢献するMICEの開催・誘致に取り組むとともに、MICE商談会の開催や出展を通じて、コロナ禍で分断された国際的なMICE誘致ネットワークの再構築を図る。	新規	31,000	1	再掲
		京都観光オフィシャルサイトの運営	通年	京都観光オフィシャルサイトを運用し、国内外の観光客に向けて、魅力的なコンテンツはもとより、新型コロナウイルス感染症に係る注意喚起、施設・イベント等の休止情報の発信や、京都観光モラル、入浴前からのマナー啓発、観光客の分散化、災害・防災行動情報など、京都観光に資する情報の発信を行う。	継続	63,200	1	再掲
		メディア等を通じた国内外向け情報発信等	通年	海外情報発信・収集拠点(全6箇所)(台北、シドニー、パリ、ロンドン、ロサンゼルス、ニューヨーク)を設置して海外市場に合わせたきめ細やかなプロモーションを実施するほか、映画・ドラマの撮影支援等の国内外のメディア支援を行うことにより、世界における京都のメディア露出の増加に努める。	継続	36,416	1	再掲
		京都文化交流コンベンションビューロー補助金	通年	MICE京都ブランドの一層の磨き上げや競争力強化を図るため、積極的な誘致活動や、誘致・開催を支援する助成金・補助金制度の活用等を通じて、MICEの早期回復に繋げる。	継続	102,344	1	再掲
		京都市認定ガイド制度の運営	通年	外国人観光客へのサービスの向上と通訳ガイドの活躍の場を充実させるため、これまでに育成したガイドに対して、必要な知識や技術を学ぶ研修を実施する。また、外国人観光客の本格的な回復や令和7年に開催予定の大阪・関西万博等の大型イベントを見据え、新規募集(第6期生)を行う。	継続	22,900	1	再掲
都市計画局	まち再生・創造推進室	ワールド・モニュメント財団との連携による京町家再生プロジェクトの実施	通年	(公財)京都市景観・まちづくりセンターでは、歴史遺産や建造物等の保存を支援する世界最大の非営利団体ワールド・モニュメント財団(米国)と連携し、京町家の魅力と現代的価値を海外に情報発信している(H21～)。 ①平成25年:世界的旅行誌トラベル・アンド・レジャーのグローバル・ビジョン・アワード2013を受賞。 ②平成30年:ユネスコアジア太平洋文化遺産保全賞最優秀賞を受賞。 ③平成31年:ベストインヘリテッジ世界大会に参加。WMF寄附者、役員の訪問受入。 ④令和元年:ICOMやユネスコが開催を支援する、文化遺産保全に関する国際大会「The Best in Heritage」で優秀賞を受賞。 ⑤令和4年:フリーマン財団の訪問、北京文化遺産保存センター役員の視察受入。 ⑥令和5年:WMF財団役員の視察受入。	継続	300		
教育委員会	学校指導課(初等中学校教育担当)	姉妹都市との交流	令和5年9月27日(水)～10月1日(日)	○姉妹都市交歓作品展 ・市立幼稚園・学校の園児・児童・生徒の作品及び姉妹都市の子どもの作品約2,600点を一堂に展示する「京都市幼児・児童・生徒作品展及び姉妹都市交歓作品展」を開催。 ・作品展終了後、本市の出品作品のうち約200点を姉妹都市に交歓作品として贈呈。 ・令和5年度はケルンと姉妹都市提携が60周年であり関連企画を実施。	継続	835	3	

国際都市像3 ささまざまな世代で国際交流や多文化共生の意識が高まり、国際感覚をもった人が育つまち

局区	担当課	事業名	令和5年度取組状況		新規・充実・継続	R5年度予算額(千円)	その他関連する国際都市像	備考
			実施時期	概要				
総合企画局	国際交流・共生推進室	京都・ケルン姉妹都市提携60周年記念事業	通年	ケルン市との姉妹都市提携60周年を記念し、京都市及びケルン市において、文化・スポーツ・経済・学術などの分野で記念事業を実施した。 京都市内では、市民に広くケルンの魅力を感じていただけるよう、「京都市内の洋菓子店と連携した、ケルンに関するオリジナルスイーツの販売」や「市内大学生ボランティアによるケルン・ドイツの紹介など様々な企画で盛り上げる京都deオクトーバーフェスト」を市民や関係団体と連携して実施した。 また、11月には本市代表団がケルン市を訪問し、市民交流団体等とともに、ケルン市内の大学生や企業等に対して京都の留学環境やビジネス環境の魅力を紹介するセミナーや、京都の伝統工芸品の展示・商談を行う「京都体感フェア」を実施した。	新規	11,579	1.2	再掲
		京都市国際交流・多文化共生審議会の開催	第1回: 令和5年8月2日 第2回: 令和6年2月16日	第1回審議会議では、今年度の国際交流・多文化共生関連事業の実施予定等について市から報告するとともに、今期(令和5年度～7年度)提言に向け、テーマ設定について委員に議論いただいた。第2回では、市から今年度事業の取組状況等を報告するとともに、今期提言に向け、テーマ(①国際交流に係るテーマ:「市民・民間主体の国際交流の裾野の拡大と担い手の育成」、②多文化共生に係るテーマ:「外国籍市民等の地域コミュニティへの参画と、多文化共生の担い手の育成」)に基づき議論いただく予定。	継続	326	1.2,4	再掲
		国際交流会館管理運営(指定管理)	通年	京都市国際交流会館では、市民レベルの国際交流や多文化共生を推進するための各種事業を実施しているほか、各種活動の場として広く市民に活用されている。 【令和5年度の来館者数】193,942人(令和5年12月末現在) 1 市民への情報提供・相談事業 ホームページやメールマガジン等を活用した情報発信、「京都市外国籍市民総合相談窓口」の運営(「行政書士による出入国管理手続き相談」、「外国人のためのカウンセリング・デイ」、「生活相談」など) 2 国際交流団体等との連携事業(「kokoka国際交流団体ねつと」の運営など) 3 共生社会を促進していくための担い手育成事業(ボランティア活動育成事業など) 4 異文化理解・多文化共生社会への促進事業(kokokaオープンデイ、やさしい日本語講座など) 5 留学生への支援、留学生との協働・交流事業(京都留学生情報サイトなど) 6 広報・出版・広告事業(イベントカレンダーの発行など) 7 姉妹都市コーナー・展示室の運営	継続	186,453	4	【指定管理者】 公益財団法人京都市国際交流協会 【指定管理期間】 平成18年度～上記団体を指定管理者に選定。
文化市民局	文化芸術企画課	東アジア文化都市交流事業	通年	東アジア文化都市2017において、本市とともに連携して事業を行った中国・長沙市から、長沙市友好代表団が本市を視察。 創造都市ネットワーク日本国際ネットワーク部会において、東アジア文化都市の取組について、都市間での情報共有を行った。	継続	—	1.2	再掲
		京都国際舞台芸術祭(KYOTO EXPERIMENT)	令和5年9月30日～10月22日	京都・日本そして世界の舞台芸術を紹介することを目的に、平成22年度から京都市内で開催している舞台芸術祭。世界各地の「EXPERIMENT(エクスペリメント)=実験」的な舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を新しい形の対話でつなぐことを目指している。次年度も世界各国からアーティストを招聘する。	継続	28,000	1.2,4	再掲
		京都芸術センター事業	通年	京都芸術センターは、京都における文化芸術の総合的な振興を目的として設置され、国内外の文化施設や文化芸術団体と連携した事業の実施や、外国の文化機関とのネットワーク強化に取り組む。また、多様な芸術に関する活動を支援し、芸術に関する情報を広く発信するとともに、国際文化交流・人的交流のハブとして、国内外のアーティストの滞在制作支援事業などを実施する。	継続	127,228	1.2,4	・再掲 予算の額は、京都芸術センターの運営に係る指定管理料。
		文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業	通年	文化芸術により社会課題や困難の緩和につなげ、共生社会(誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合い、人々の多様な在り方を認め合える社会)を実現するための基盤をつくる。芸術家等が社会課題へアプローチする際や、福祉施設等が文化芸術の取組に着手しようとする際の相談に対応する「Social Work / Art Conference(SW/AC)」の実施や崇仁・東九条地域における文化芸術活動の支援などにより、社会課題や困難の緩和につなげ、文化芸術による共生社会の実現に向けた基盤づくりに取り組んでいる。	継続	14,450		
人事委員会事務局	—	京都市職員採用試験(青年海外協力隊等活動経験者)	11月	青年海外枠については別枠試験を廃止し、経験者試験に統合した。(経験要件に、海外協力隊等における活動経験(2年以上)を含むこととした)	継続	—		
上下水道局	経営戦略室	JICA課題別研修「上水道施設技術総合」の受入れ	—	JICAと日本水道協会の調整の結果、令和5年度は本市への視察は見送ることとなった。	継続	—		
		JICA課題別研修「都市上水道維持管理」の受入れ	令和5年5～7月	JICA課題別研修「都市上水道維持管理(浄水・水質A)」を、大阪市水道局との共同により、約1か月間半実施した。 海外研修生の課題に対して個別に聞き取ったうえでコンサルテーションを行うなど、研修生のアクションプラン作成に向けたサポートを行った。またプログラムの一環として、蹴上浄水場の視察研修も行った。	継続	—		
教育委員会	学校指導課(初等中学校教育担当、高校担当)	英語教育・国際交流の推進	通年	子どもたちが実践的な英語力を身につけることができるよう、小学校で日常的に英語に触れるための取組、中高校生の英検受検料補助、高校での修学旅行等や海外姉妹校との相互交流、GTECの活用に取り組んでいる。 また文部科学省の留学支援制度であるトビタテ留学JAPAN等への積極的な応募も促している。	継続	市立高校課題探究型修学旅行の推進:19,515千円 グローバルコミュニケーション:12,057千円		
		外国語指導助手(ALT)の活用促進と教員の実践的英語力の養成	通年	小学校外国語活動の早期化・教科化に伴う授業時数増や中・高等学校での授業改善による高度な実践的英語力の育成(英語4技能の総合的な育成など)に向け、ALT(外国語指導助手)の計画的な配置や教職員研修の充実等により、指導力の向上を図っている。	継続	ALT 13,928千円(事務局費) 298,949千円(人件費)		
	学校指導課(初等中学校教育担当)	姉妹都市との交流	令和5年9月27日(水)～10月1日(日)	○姉妹都市交歓作品展 ・市立幼稚園・学校の園児・児童・生徒の作品及び姉妹都市の子どもたちの作品約2,600点を一堂に展示する「京都市幼児・児童・生徒作品展及び姉妹都市交歓作品展」を開催。 ・作品展終了後、本市の出品作品のうち約200点を姉妹都市に交歓作品として贈呈。 ・令和5年度はケルンと姉妹都市提携が60周年であり関連企画を実施。	継続	835	2	再掲
	体育健康教育室	諸外国の食文化の体験	通年	諸外国の料理や様々な調理方法による献立を提供することで、食に対する理解を深めていく取組を実施した。	継続	—		
	生涯学習部施設運営担当	京都市図書館での英語多読図書等の貸出、外国語絵本の読み聞かせ等	通年	京都市図書館では、児童書をはじめとした英語等の外国語の図書等を所蔵し、貸出を行っている。醍醐中央・岩倉・山科・吉祥院・久世ふれあいセンター・西京図書館では外国語絵本の読み聞かせ等の行事を子ども達やその保護者等を対象に開催した。	継続	—		

国際都市像4 多様性を生かしたまちづくりが進み、市民の生活が豊かになっているまち

局区	担当課	事業名	令和5年度取組状況		新規・充実・継続	R5年度予算額(千円)	その他関連する国際都市像	備考
			実施時期	概要				
総合企画局	国際交流・共生推進室	京都市国際交流・多文化共生審議会の開催	第1回: 令和5年8月2日 第2回: 令和6年2月16日	第1回審議会で、今年度の国際交流・多文化共生関連事業の実施予定等について市から報告するとともに、今期(令和5年度～7年度)提言に向け、テーマ設定について委員に議論いただいた。第2回では、市から今年度事業の取組状況等を報告するとともに、今期提言に向け、テーマ(①国際交流に係るテーマ:「市民・民間主体の国際交流の裾野の拡大と担い手の育成」、②多文化共生に係るテーマ:「外国籍市民等の地域コミュニティへの参画と、多文化共生の担い手の育成」)に基づき議論いただく予定。	継続	326	1,2,3	再掲
		医療通訳派遣事業	通年	医療機関に対して通訳者を派遣することにより、外国籍市民等が安心して医療サービスを受け、安全に暮らすことができるよう、言葉を中心としたサポートを行っている。 ・令和5年度利用件数(令和5年12月末現在):1,006件	継続	3,000	1	再掲
		地域・多文化交流ネットワーク促進事業	通年	多文化共生を推進する団体や外国人コミュニティ等への活動場所の提供、関係団体間の連携促進、外国籍市民等支援や異文化理解に関する事業(日本語教室や東九条春まつり)を実施している。	継続	9,900	1	再掲
		京都市外国籍市民総合相談窓口運営	通年	在留手続、雇用、医療、福祉、出産・子育て・子供の教育等の生活に係る適切な情報や相談場所に迅速に到達することができるよう、多言語による情報提供及び相談を行っている。 ・令和5年度相談件数(令和5年12月末現在):6,634件	継続	5,365	1	再掲
		多言語情報発信サポート事業	令和5年12月～ 令和6年2月	総合政策室京都創生担当と連携し、海外からの寄付獲得や新たな海外の京都ファンとの関係構築に向けて、外国人向けホームページに対する意見聴取会を開催した。 1回目:令和5年12月20日 2回目:令和6年2月28日(予定)	継続	400	1	再掲
		災害時多言語電話通訳事業	通年	災害発生時、避難所の運営主体等が、日本語を話せない外国籍市民等が来られた際に対応できるよう、多言語対応した専用の電話回線により通訳可能な体制を整えている。(避難所等の開設期間中、24時間利用可能)	継続	500	1	再掲
		国際交流会館管理運営(指定管理)	通年	京都市国際交流会館では、市民レベルの国際交流や多文化共生を推進するための各種事業を実施しているほか、各種活動の場として広く市民に活用されている。 【令和5年度の来館者数】193,942人(令和5年12月末現在) 1 市民への情報提供・相談事業 ホームページやメールマガジン等を活用した情報発信、「京都市外国籍市民総合相談窓口」の運営(「行政書士による出入国管理手続き相談」、「外国人のためのカウンセリング・デイ」、「生活相談」など) 2 国際交流団体等との連携事業(「kokoka国際交流団体ネットワーク」の運営など) 3 共生社会を促進していくための担い手育成事業(ボランティア活動育成事業など) 4 異文化理解・多文化共生社会への促進事業(kokokaオープンデイ、やさしい日本語講座など) 5 留学生への支援、留学生との協働・交流事業(京都留学生情報サイトなど) 6 広報・出版・広告事業(イベントカレンダーの発行など) 7 姉妹都市コーナー・展示室の運営	継続	186,453	3	・再掲 【指定管理者】 公益財団法人京都市国際交流協会 【指定管理期間】 平成18年度～上記団体を指定管理者に選定。
京都市におけるkokoka日本語教育推進事業	通年	京都市国際交流会館の指定管理者である、京都市国際交流協会が文化庁の補助金を受け、オンライン学習や日本語学習支援者をはじめとする担い手育成などを実施しており、本市も協会や関係機関と連携し、京都市域における日本語教育を推進している。 ・令和5年度実績(令和5年12月現在):ボランティアによる日本語教室7,107人 オンラインにほんご326人	継続	—				
行財政局	防災危機管理室	京都市防災ポータルサイト多言語発信	通年 (令和3年度～)	京都市防災ポータルサイトを多言語での自動翻訳機能で運用している。	継続	4,990		システム全体の保守費用(多言語部分のみ算出できない)
文化市民局	地域自治推進室	テレビ電話型翻訳タブレットを活用した区役所・支所における窓口サービスの充実	通年(令和2年5月1日～)	本市で暮らす外国籍市民の方が、転入・転出、医療、子育て等に係る各種手続きや市民生活相談で、区役所・支所を訪れた際に、窓口で多言語での対応ができるよう、各区役所・支所に、テレビ電話型翻訳タブレット端末を配備する。 ※対応言語:16言語(英語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語、フィリピン語、インドネシア語、スペイン語、ヒンディー語、タイ語、フランス語、ロシア語、中国語、クメール語、ミャンマー語、ウクライナ語)	継続	1,200		
	地域自治推進室	字幕表示システムの導入	令和6年3月運用開始予定	話した言葉がスクリーンに表示される字幕表示システム「Cotopat(コトパット)」を、令和5年度、上京区役所にて試行導入し、高齢者、聴覚障害のある方及び外国籍の方等とのコミュニケーションの円滑化に向けた取組の検証を行った。令和6年3月から全区役所・支所に導入予定。 日本語からの翻訳表示にも対応し、英語、中国語(簡体)、中国語(繁体)、韓国語、ベトナム語、ポルトガル語を含む、134言語から選択可。	新規	8,059		
	美術館	展示の多言語表記	通年	当館の常設展であるコレクションルームでの展示作品について、英語・中国語・韓国語表記でのキャプションや作品リストを作成。	継続	2,400		
		多言語版音声ガイド	通年	コレクションルーム出品作品について、英語での解説音声ガイドを作成し、運用。	継続	3,300		
		多言語版パンフレット	通年	館内案内パンフレットを英語語・中国語・韓国語表記で作成・配架。	継続	—		リニューアル当初に作成したものを配架しているため、R5年度予算額は0。

局区	担当課	事業名	令和5年度取組状況		新規・充実・継続	R5年度予算額(千円)	その他関連する国際都市像	備考
			実施時期	概要				
文化市民局	文化芸術企画課	京都国際舞台芸術祭 (KYOTO EXPERIMENT)	令和5年9月30日～10月22日	京都・日本そして世界の舞台芸術を紹介することを目的に、平成22年度から京都市内で開催している舞台芸術祭。世界各地の「EXPERIMENT(実験)=実験」的な舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を新しい形の対話でつなぐことを目指している。次年度も世界各国からアーティストを招聘する。	継続	28,000	1.2.3	再掲
		京都芸術センター事業	通年	京都芸術センターは、京都における文化芸術の総合的な振興を目的として設置され、国内外の文化施設や文化芸術団体と連携した事業の実施や、外国の文化機関とのネットワーク強化に取り組む。また、多様な芸術に関する活動を支援し、芸術に関する情報を広く発信するとともに、国際文化交流・人的交流のハブとして、国内外のアーティストの滞在制作支援事業などを実施する。	継続	127,228	1.2.3	・再掲 予算の額は、京都芸術センターの運営に係る指定管理料
保健福祉局	介護ケア推進課	高齢者外国籍市民福祉給付金	通年	昭和61年4月1日の基礎年金制度発足時に既に60歳に到達していたことにより、国民年金を受給していない在日外国籍市民(帰化した者を含む。)に対して、国が制度化を図るまでの過渡的な施策として、福祉給付金を支給する。	継続	3,264		
		高齢・障害外国籍市民福祉サービス利用サポート助成	通年	日常生活における不安や悩みの解消を図るため、外国籍市民等を対象とした訪問・支援活動等により、福祉サービスの利用支援等を行う京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク・モアに対して助成金を交付する。	継続	1,120		
		外国人介護人材受入支援事業	12月～2月(予定)	外国人介護人材が市内の介護現場において円滑に就労・定着できるよう、介護技能向上のための集合研修の実施に対する支援を行う。	継続	3,000		
子ども若者はぐくみ局	育成推進課	外国籍市民等を対象とした日本語教室の開講	通年	伏見青少年活動センターにおいて、青少年ボランティアによる日本語を母語としない人々を対象とした「にほんご教室」を開講(平成14年度～)	継続	指定管理料の一部で実施		
消防局	警防部救急課	日本語を介してのコミュニケーションが困難な方に対する救急現場対応ツールの活用	通年	・救急現場で使用頻度が高い会話内容を定型文登録している多言語音声翻訳アプリ「救急ボイス」を活用 ・外国人傷病者等からの問診及び情報収集をより円滑にするため、8箇国語の多言語シート(英語、中国語[簡体字]、韓国・朝鮮語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、中国語[繁体字])を活用	継続	—		
	警防部情報指令課	多言語通訳体制の確保	通年	日本語を介してのコミュニケーションが困難な方に対し、119番通報時や災害現場活動時において5箇国語通訳サービス(英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語)の実施を行った。	継続	1,000		
	予防部予防課	外国籍市民等に対する防災啓発の推進	通年	外国籍市民等の防火防災啓発のため、多言語リーフレット(やさしい日本語・英語・中国語・韓国語の4か国語)を作成し、各区役所、消防署、国際交流会館等を通じて外国籍市民等に配布。	継続	132		
交通局	企画総務部 企画総務課	多言語対応のスマートフォン・タブレット用HPの運用	通年	4か国語(日・英・中・韓)対応のスマートフォン・タブレット用HP「京都市バス・地下鉄ガイド」の運用	継続	511		
	企画総務部 営業推進課	「地下鉄・バスなび」の制作	通年	外国人観光客向けに、主な観光地へのアクセス早見表や地下鉄・市バスの乗り方などを掲載した市バス・地下鉄の路線図を3か国語(英語、中国語(簡体字)、韓国語)で制作	継続	8,520		
		多言語電話通訳サービス	通年	外国人観光客との意思疎通をスムーズにし、的確に案内ができるよう、京都市観光協会・公益財団法人京都文化交流コンベンションヒーローが実施している電話による外国語通訳及び翻訳サービスを案内所・定期券発売所において提供	継続	—		
		コミュニケーションボード及びタブレット端末の配備	通年	交通案内や忘れ物などの問合せに対し案内文とイラストを記載した、日・英・中・韓対応の「コミュニケーションボード」を案内所に配備 40か国語以上対応の自動翻訳アプリなどを導入したタブレット端末を案内所及び一部定期券発売所に配備	継続	354		
	自動車部運輸課	外国語等による情報提供の充実	通年	次の停留所名を案内する「次は(停留所名)表示」及び次の停留所に停車することを案内する「つぎ止まります」の表示を4か国語(日・英・中・韓)とする。	継続	—		
		災害時等における外国語等による情報提供	通年	災害時、緊急時等にバス車内で掲示する運行情報等の案内文を、4か国語(日・英・中・韓)表記	継続	—		
		外国語のコミュニケーションボードの用意	通年	市バスの運賃や支払方法といった御利用方法などの基本的な案内文とイラストを記載した、日・英・中・韓対応の「コミュニケーションボード」を作成し、市バス車両に配備	継続	200		
	高速鉄道部運輸課	外国語等による情報提供の充実	通年	・外国人旅客とより円滑にコミュニケーションを図るため、全駅に「自動翻訳付きタブレット」を配備、加えて全駅に多言語対応小型通訳機を配備済 ・JIS規格に対応したピクトグラムによる駅構内の案内表示を掲出するとともに、駅ナンバリング表示を導入し、外国人の方にも分かりやすい表示を実施	充実	2,869		
		災害時等における外国語等による情報提供	通年	・災害時等における運行情報を外国人旅客の方にも分かるよう、多言語(日・英・中・韓)での案内文を駅構内に掲示 ・車内に交通局ホームページへ誘導する二次元コードを貼付し、運行情報を提供	継続	—		
	高速鉄道部 高速車両課	外国語等による情報提供の充実	通年	地下鉄車両の車内案内表示装置及び行先表示装置の4か国語対応(日・英・中・韓) 令和元年度 : 烏丸線完了(新型車両へ更新予定の9編成を除く) 令和2年度 : 東西線完了 令和3～4年度 : 烏丸線新型車両3編成の更新完了 令和5年度 : 烏丸線新型車両2編成の更新完了	継続	78,884		
高速鉄道部 電気課	外国語等による情報提供の充実	通年	地下鉄烏丸線全15駅のホームに設置されている列車案内表示器を4箇国語(日・英・中・韓)表示が可能な機器に更新(令和5年12月までに完了)。改札口付近にも4箇国語(日・英・中・韓)表示が可能な列車案内表示器を設置(竹田駅を除く)。	継続	384,476		予算額にはその他工事費を含む	

局区	担当課	事業名	令和5年度取組状況		新規・充実・継続	R5年度予算額(千円)	その他関連する国際都市像	備考
			実施時期	概要				
上下水道局	総務部 お客さまサービス推進室	外国語のコミュニケーションボードの用意	通年	各営業所・お客さま窓口サービスコーナーにおいて、外国から京都市内に転居されたお客さまの来所目的等を確認するために、外国語のコミュニケーションボード(英語、韓国語、中国語)を用意する。	継続	—		
		各種申込用紙に係る英語版記入例の用意	通年	各営業所・お客さま窓口サービスコーナーにおいて、外国人のお客さまとの対応方法を充実するため、英語版の記入例を用意する。	継続	—		
		多言語電話通訳サービス	通年	各営業所・お客さま窓口サービスコーナーにおいて、外国人のお客さまからの電話に対し、お客さま、職員、通訳者(英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語等)の3者が同時に会話をを行う。また、窓口に来庁されたお客さまには、電話機のスピーカー機能等を活用して通訳者を交えた対応を行う。	継続	196		
	水道部疏水事務所 水道部蹴上浄水場 水道部松ヶ崎浄水場 水道部新山科浄水場	パンフレット等の外国語対応	通年	上下水道局が発行・印刷する外国語対応のパンフレット作製の実施 【パンフレット等】 ・琵琶湖疏水:英語 ・京の水道 蹴上浄水場:英語 ・京の水道 松ヶ崎浄水場:英語 ・京の水道 新山科浄水場:英語	継続	—		
	下水道部鳥羽水環境 保全センター及び同吉祥院支所	パンフレット等の外国語対応	通年	上下水道局が発行・印刷するパンフレット等について、外国語対応を行っている。 【パンフレット等】 ・鳥羽水環境保全センター概要:英語 ・鳥羽水環境保全センター吉祥院支所:英語	継続	—		
教育委員会	学校指導課 (人権教育担当)	留学生による母語支援活動	通年 (平成27年度～)	市立小・中学校において、来日間もない帰国・外国人児童生徒等の母語支援活動に留学生の参加を進めることで、留学生を受け入れ、留学生の活躍の場を広げるとともに、当該児童生徒が安心して日本の学校生活に適応していけるような学習環境の充実を図る。	継続	1,332		
		多文化が息づくまちづくりに向けた日本語指導体制等の充実	通年 (平成28年度～)	日本語の理解が十分でない外国にルーツをもつ児童生徒等の増加傾向をふまえ、受入時に迅速かつ的確に対応できる新たな体制として、日本語指導担当教員の派遣等の総合的な支援を行うサポート校を設置し、外国にルーツをもつ児童生徒の受け入れを進めた。その体制のもと、巡回指導を担当する教員、母語による学校生活の適応促進や通訳等の主に言語面の支援を行う母語支援員を配置して一層の充実を図った。	継続	21,262		
		教育や子育てに関する情報の多言語化の推進	冬頃 (平成30年度～)	日本語を母語としない就学前の子どもの保護者に対し、小学校生活についての必要な情報等を確実に伝えるために、必要事項を多言語で記載したリーフレットを配布した。 また、令和2年度からは、日本語を母語としない保護者に対して、多言語による「小学校生活 親子オリエンテーション」を新たに実施し、日本の小学校生活や入学準備等について、小学校生活スタートガイドに加えて写真や実物を直接示す等、より効果的な手法で説明を行うと共に、家庭での母語保持の大切さについて伝えた。	継続	1,140		
	青少年科学センター	プラネタリウムの解説の英語訳チラシの作成・配布	通年 (令和3年3月～)	日本語の理解が十分でない外国人来館者に対して、番組概要の理解の一助とするために、じっくり満喫プラネタリウムの番組概要について日英併記で解説したチラシを作成し、必要な方に配布することで、幅広い来館者のさらなる満足度向上を図っている。	継続	—		